

公表

事業所における自己評価総括表 (児童発達支援)

○事業所名	(児童) 通所支援事業所 あいらいん		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2024年12月19日		～ 2025年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備及び適切な支援の提供の中で、入浴サービスを実施していること	特殊浴槽を使用し、職員が2人体制の上で入浴を行っている。2人体制で実施することにより、安全にケガへの注意及び湯温の調整、室温の調整等、利用者様が楽しく入浴ができるように声かけ等を行っている。また、発作等の利用者様の状態に合わせて対応するように取り組んでいる。	入浴サービスにおいては、音楽を流す、ゆず湯や入浴剤を入れる等の取り組みを増やしていくことによって、入浴時間をさらに楽しむことができるよう取り組みを増やしていく。
2	職員の配置、個々の状態に合わせた支援の取り組みの中で、看護職員や専門的支援を行うことができる職員の配置ができていること。	医療的ケアの実施、発見した症状等の情報をこまめに記録に残す、利用者様の発作等の状況に合わせて対応するように取り組んでいる。また、理学療法士による機能訓練を実施している。	各利用者様の専門的支援計画の目標を決め、専門的支援の目標や手段等を職員下院で共有し取り組むようにしていく。
3	適切な支援の提供や関係機関や保護者の連携の中で、重症心身障害児が日常生活の中で、個々の状況に合わせて、なかなか経験を重ねることができないことを体験する機会を作ること。	職員間で話し合いを行い、一人ひとりの体の状態や生活の状況に合わせて楽しみ方を考えて提供するようにしている。また、どのような体勢であっても利用者様が楽しく取り組むことができるような工夫を行っている。	社会参加(さまざまな人がいる中での活動等)、外出等、生活している環境の中でのさまざまな体験を重ねていくことができるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援については、現在契約児童がいないこと	現在は、重症心身障害児を対象としているが、以前は発達障害等の児童の受け入れを行っていたこともあり、変更された時期での関係機関等との連携がうまくできていなかったのではないかと考えられる。	医療機関及び行政機関、相談支援事業所、保護者会等の関係機関との連携を図り、現在の重症心身障害児の状況などを確認し、必要に応じて積極的な受け入れを行っていく。また、当事業所でどのような支援を受けることができるのか、発信していくことができるように取り組む。
2	関係機関や保護者との連携の中で、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制が十分には整えられていないのではないか	医療機関との連携については、なかなかドクターとの連携が図れていないと感じられる。病院の地域連携室等の担当者との連絡も以前より行えていない。 また、保護者が何を求めているかニーズの把握がうまくできていないのではないかと。	医療機関及び行政機関、相談支援事業所、保護者会等の関係機関との連携を図り、現在の重症心身障害児の状況などを確認し、必要に応じて積極的な受け入れを行っていく。また、当事業所でどのような支援を受けることができるのか、発信していくことができるように取り組む。
3	地域を含めたイベントの開催及びイベントへの参加等	事業所が主となってイベントを開催するためには、曜日や職員の確保が課題となっている。	自分対地で開催する前に地域のイベントや他事業所のイベントへ参加し、地域の社会参加を積極的に取り組む。